

しが国際協力親善大使レポート

し はた よしのり
四畑 吉規さん

隊次：2017年度3次隊

職種：理科教育

派遣国：ルワンダ

自己紹介

Muraho!!!（こんにちは！）私は、今アフリカ大陸のほぼ中心、赤道直下に位置する国、ルワンダ共和国に理科教育隊員として派遣されている四畑 吉規（しはた よしのり）と申します。私は、近江八幡市出身で以前は滋賀県の公立中学校で理科の講師として働いていました。教師という仕事を経験した後、昔から憧れであった青年海外協力隊に応募いたしました。今回、このような形でルワンダという国や、私の活動を紹介できるということが大変うれしく思います。

活動している国、地域の気候や文化の紹介

読者の皆さんは、アフリカと聞くとどんなイメージですか？私は派遣される前、「暑い」「砂漠」「動物多い」というイメージを持っていました。しかし、ここルワンダはあまり暑くなく砂漠もありません!!動物も国立公園に行けば会えますが、生活していてライオンや象に会うということはありません。一年中、30℃前後と温暖で大変過ごしやすい気候です。また、ルワンダはほぼ「丘」で国土が形成されており、アップダウンが激しい地形となっております。ルワンダは「千の丘」からなる国とも呼ばれています。そんな国であるので、私が暮らす村でも、標高が1809mあり、滋賀県一高い山である伊吹山（標高：1377m）よりも高い所で暮らしています。

活動や生活について

私の配属先は、TTC Muhanga(TTC: Teacher Trainig Center)という小学校教員養成校です。そこに通う生徒たちは日本でいう高校1年生～3年生の生徒たちです。私はそこで理科教育隊員として活動しています。私は理科教育の推進を目的に、サイエンスクラスの生物の授業を担当しており、また現地で手に入るモノを使って実験を行ったりしています。加えて、ルワンダと日本の文化を両国の生徒に知ってもらうために日本の学校と Skype 交流をこの1年で4回実施いたしました。この活動は毎回好評なので、できれば今後も継続して行っていきたいと考えています。さらに、課外活動として自分の特技を生かし、空手の稽古、ギターの演奏技術指導などにも力を入れています。ギターの活動では、自分自身も演奏会でギターを披露したり、日曜の礼拝にギターが弾ける同僚と参加したりもしてい

ます。

私の配属先の生徒は、真面目で好奇心旺盛で日本のことや授業に関しての質問なども多いです。また、歌がうまかったり、スポーツが得意であったり、勉強がよくできる子たち、本当に様々な特技を持った生徒たちがいて、その生徒たちと関わることがとてもおもしろいです。

さらに長期間の休みを利用して、ルワンダ各地に散らばる生徒を家庭訪問しています。この訪問では、生徒の家庭環境や住んでる地域のことを知ることを目的としています。訪問する生徒一人一人、全く違う環境下で暮らしているのもとても深く考えさせられます。生徒を訪問すれば家族総出（だいたい家族は10人くらいと多いです）で出迎えてくれ、食事（いもと豆を煮こんだものが多いです）もかなりの量を準備して私をもてなしてくれます。私は、その「人を受け入れる文化」にいつも感動させられます。しかし、家庭訪問すると「貧富の差」というものも感じます。ある村に住んでる生徒を訪問した時、服はとても汚れボロボロで、靴も履いていない大勢の子どもたちの姿を目の当たりにしました。生徒の家も、これまで訪問してきたどの家よりも貧しいということがわかるくらいの家でした。そんな状況でも、子どもたちは笑顔を絶やさず、人懐っこく私の名前を何度も呼んでくれる姿がそこにはありました。本当の幸せとは、何のかこの訪問を通して考えるようになりました。お金があるから幸せなのか、お金がないから不幸なのか。答えは未だに出てきませんが、大切なのは「見知る」ことだと思います。生活を共にして、現地の人たちの暮らしを「実際に知る」そして、その感じたことを発信する。そうやって、他人事を自分事にして考えていけば、今は無理でもいつか世界を変える力になる。私はそう思います。

最後まで読んでいただきありがとうございます。



配属先の生徒たちと



理科教育ボランティア主催のワークショップ



空手の稽古



生徒の家を家庭訪問



生徒の家の近所でギター演奏